


宮城県

1. 商品名等

商品名	SDGs 藻場再生活動啓発観光商品「どらモク」		
商品写真(イメージ等)		商品説明(コンセプト等)	
		<p>東日本大震災以降、松島湾の藻場が大きく減少し海の環境が変化しています。その藻場の海藻「アマモ」や「アカモク」を増やす地元のNPO法人が始めた「藻場再生活動」について講話をいただきました。</p> <p>松島に観光で訪れた御客様に、松島湾の美しさやSDGs活動となる藻場再生活動を伝え、観光のリピーターとして召し上がっていただけるよう「アカモク」を活用した和のスイーツとして「どら焼き」の皮にアカモクの粉を加え、ホイップクリームを載せた小豆餡とずんだ餡の2種類の「どらモク」を開発しました。</p>	

2. 学校紹介

学校名	宮城県松島高等学校	電話	022-354-3307
住所	宮城県宮城郡松島町高城字迎山三5	FAX	022-354-5847
担当者	森 友寿	千葉 孝明	
URL	https://matsushima-h.myswan.ed.jp/		
E-mail	matsushima-h@od.myswan.ed.jp		
<p>本県で唯一の観光科がある宮城県松島高等学校は、普通科と併設されており日本三景松島の町内にあります。</p> <p>観光資源を教材に、ビジネス・観光商品開発・松島の歴史について学習活動に取り組む観光科は、松島湾の多島海の景色・名所や史跡とグルメ等を紹介(ガイド)する活動を行っています。</p> <p>令和元年度よりSDGs活動を観光商品に組み込んだツアーを販売し、令和2年度から地元NPO法人に松島湾での藻場再生活動を学ぶ機会があり、藻場再生と観光について研究をしています。先輩から研究を引き継ぎ、令和3年度からリピーター(交流人口)増加を目的とした観光商品開発に向け、調査、取材、企画(旅程作成・スイーツ開発・体験活動)について学習活動に取り組んでいます。</p>			

3. 実施科目等

科目名	旅行業務・課題研究	単位数	3単位
対象生徒	第3学年	担当教員数	8名

4. 予算関係(費用)

企業様の御協力により試作を3回実施していただきました。

5. 開発経緯等

授業における観光商品開発に取り組む中で、松島の観光資源となる松島湾の原状を知り、観光客に深く松島を理解し、また訪れるきっかけにしたいと考えました。そこで、松島町やNPO法人E-TECの御協力により講話をいただき、東日本大震災以降の藻場減少による水質の悪化が今後の観光への影響することをうかがい、SDGs活動として藻場再生活動の啓発の必要性を強く感じました。

松島湾が抱える問題点を調査し、名所や史跡の紹介やガイドだけではなく、地元松島の資源を活用したスイーツ製造体験を観光ツアーの行程に組み込み、SDGsや藻場再生活動の紹介等も行うことを考えました。そこで、高校生を対象にしたモニターツアー参加者と事前交流会を実施した際に、観光の現状について深く知りたいとのことから、抱える問題や本校生徒の解決に向けた取り組みを紹介したところ意見交換で「松島に来たのでお勧めを食べたい」とのお話がありました。

そこで、「アカモク」を活用した和のスイーツを企画し、校内でアカモクパウダーの含有率と配合量を研究する試作を3回経て、地元の業者に商品開発プレゼンテーションを4ヶ月にわたり3回実施したところ、「小豆餡」の他に「ずんだ餡」のバリエーションやホイップクリームの使用等のアドバイスをいただきました。そして、行政・観光関係・環境保全団体・旅行者・松島湾のアカモクパウダーの生産者・どら焼きを製造する業者等の多様な関係者から多くの御協力をいただき「どらモク」が完成しました。

観光ガイドの旅程の一つにSDGs活動紹介と「どらモク」販売を実施しました。



6. 販売形態・期間

⑦

店頭での販売（観光ガイドボランティアやイベント）、受注生産

7. 協力者等

⑦

- ・宮城県松島町
- ・株式会社 利久（牛タン炭火 利久 松島五大堂店）
- ・E-TEC（E-TEC 特定非営利活動法人 環境生態工学研究所）
- ・岩手アカモク生産協同組合

8. 商標登録の有無

⑧

9. 今後の課題・展望等

本校で実施や参加したSDGs活動において販売を行っており、定番商品化を目指しています。

また、松島を五感で感じられる名所・史跡の歴史の紹介と、観光中に災害が起きた場合の避難訓練や、松島湾の水産資源のアカモクやアマモ、ウナギの現状について学習し、藻場再生とスイーツ作り（どらモク）体験から、スイーツのブランド化と松島湾の海の生態系と藻場再生活動につなげて観光をとおした松島湾の本来の姿を取り戻すお手伝いを目標としています。